

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、ことし三月に市内に誕生したよさこいグループ「あっぱれかぐや」の皆さんを紹介いたします。

あっぱれかぐや

よさこいは、昔ながらの地域の民謡や伝統芸能などを取り入れた、地域に根差した踊り。その地域によってさまさまな踊りがあるのがよさこいの魅力です。あっぱれかぐやの踊りは、振り付けや曲づくり、指導までを、市内の舞踏家・泉裕紀さんが担当。「自分たちが踊りたいように」と現代風にアレンジされた、激しく動きのある踊りです。

あっぱれかぐやの誕生は半年前。現在グループの代表者である佐野裕美さんが、昨年の「よさこい沼津祭り」に実行委員として参加したとき、富士市でもぜひグループをつくって踊りたい



練習中のまなざしは真剣そのもの

いと思ったのがきつかけで誕生。あっぱれかぐやという名は、かぐや姫の里・富士市をアピールするには一番よい、ということからつけられました。

現在、グループのメンバーは三十五人。主に社会人が多いのですが、年齢に関係なく気持ちはとても若い人たちばかり。

佐野さんは「グループの中には、よさこいを踊りたくて入った人もいますが、ほとんどの人はよさこいを知りません。しかし、週に二、三回の練習にも積極的に参加しているので、皆さん上達が早いですよ。今は、十一月の沼津祭りに向けて練習を重ねています。グループの全員でよさこいに参加できるのは、このお祭りが初めて。練習にも熱が入ります。踊っているときの皆さんは、とても楽しそうです。本当にいい顔をしているんですよ」と話してくれました。



あっぱれかぐやの皆さん。とにかく明るく元気です

市長への手紙から

野良猫の増加に対する対策を

今回は、野良猫に関する苦情や提言について、多くのお手紙をいただきましたのでご紹介いたします。



「市長への手紙」から

無責任な飼い主によって捨てられ、放置された猫が多くて困っています。毎年数匹の子猫を産むため、野良猫とわかるものは、獣医さんの協力で避妊手術をするのですが、猫の数は一向に減りません。また、飼い猫との区別もつきにくく、明らかに野良猫とわからなければ捕まえることもできません。

犬のように、放し飼いの禁止や登録制にすれば、捨てる人も減り、野良猫も減るのではないのでしょうか。

【市長からの回答】

ご提言ありがとうございます。猫については、畑や庭を荒らしたり、ふんや尿をして不衛生であったりして困るなどの苦情も多く寄せられています。

猫はつないで飼う習慣がなく、かみつきによる狂犬病の伝染などの危険性がないため、法律による登録や予防注射の実施義務などはありません。このため、

保健所による捕獲対象にもなっていない、飼い主の無責任な放棄により一たん野良猫になると、適切な対処方法がありません。猫などのペットを飼うときには、住宅環境をはじめ家族でよく話し合い、終生かわいがって飼ってほしいと思います。飼い主はマナーを守り、ペットが地域社会で人と楽しく共存していくためにも、絶対に捨てるのはやめてください。

どうしても飼えない場合には、市役所一階の北口に設置してある「ポッチとニャンチの愛の伝言板」を利用し、新しい飼い主を探していただきたいと思えます。新しい飼い主が見つからない場合には、富士保健所の引き取り（毎月広報ふじ二十日号に掲載）に出すようにしてください。



▼問い合わせ
環境衛生課

内線二〇五四